

10. 10. 専門家等による技術的助言

10.10. 専門家等の助言内容

環境影響評価の項目並びに調査、予測及び評価の結果について、専門家等に技術的助言を受けた。

専門家等の専門分野及び技術的助言の内容は表 10.10-1 に示すとおりである。

表 10.10-1 専門家等の助言の内容

専門分野	専門家等の所属機関	項目	技術的助言の内容
騒音	教育機関	騒音	航空機騒音の予測に用いた飛行経路について、経路の幅を示すなど、実態を踏まえた掲載方法を検討されたい。 航空機騒音に係る環境保全措置として、騒音の常時監視の継続・報告が重要と考えられる。
		騒音・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行ルートとして、道路官民境界から離隔のある知多横断道路を走行させることができれば、環境影響を低減できると考えられる。 環境保全措置は、実施の実現可能性や影響低減効果を踏まえ、優先度を考慮して掲載されたい。
		低周波音	調査結果は、風の影響を受けたものを除外して有効データを整理しており、問題ないと考えられる。 予測について、飛行経路の変更に応じて距離補正を行う地点を選出することについて、問題ないと考えられる。
水質	教育機関	水質	海域における浮遊物質（SS）濃度について、ジョセフ・センドナー式及び新田式を用いて算定した予測結果は、妥当と考えられる。 濁水対策として、裸地の範囲にアスファルト乳剤を散布する方針は、妥当と考えられる。アスファルト乳剤の特性について、準備書に掲載されたい。 海域での浮遊物質（SS）濃度予測結果について、水産用水基準を超過する範囲は排水位置の近傍にとどまる予測であり、濁水の影響は小さいと考えられる。
動物（鳥類）	研究機関	動物（鳥類）	調査結果は、各調査時期に応じた当該地域の鳥類相を捉えられており、妥当である。 予測・評価結果について、調査結果を活用し、できる限り定量的な整理を行った上で予測されており、妥当である。 現滑走路の運用に伴い実施しているバードパトロールによる鳥衝突防止対策について、代替滑走路を含めた範囲でも適切に行えば、事業実施後、航空機と鳥の衝突の可能性が大きく増加することはないだろう。

